

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-163	15-066	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Regularly drinking alcohol before sex in the United States: Effects of relationship status and alcohol use disorders. 米国におけるセックス前の日常的な飲酒：婚姻状態とアルコール使用障害の影響		
執筆者		
Thompson RG Jr, Eaton NR, Hu MC, Grant BF, Hasin DS.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2014, 1(141): 167-70. DOI: 10.1016/j.drugalcdep.2014.05.021		
キーワード		PMID
セックス前の飲酒、性的なリスク行動、アルコール使用障害		24950638
要 旨		
背景： セックス前の飲酒は、HIV 感染の危険性や性的なリスク行動につながる可能性を高める。婚姻状態 (独身あるいはパートナー有) とアルコール使用障害 (Alcohol use disorder, AUD) は互いに関連するとともに、性的なリスク行動とも関連しているが、セックス前の飲酒の予測因子となるかどうかについて、国ベースのデータを用いた検討はされていない。本研究は、婚姻状態と AUD がセックス前の日常的な飲酒の可能性を高めるかどうかを、国の代表サンプルを用い検討した。		
方法： アルコール関連障害に関する全国疫学調査 (National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions, NESARC) の第 2 回目調査対象者のうち、性交好きな飲酒者 (N=17,491) を本研究の対象とし、セックス前の日常的な飲酒と婚姻状態および AUD の交互作用について検討した。セックス前の日常的な飲酒は、セックスの前は「いつも」あるいは「たいてい」飲酒するものと定義した。		
結果： 婚姻状況 (「パートナー有」を対照とした場合の「独身」の調整オッズ比=3.51, CI= 2.59–4.75) および AUD (「非 AUD」を対象とした場合の「AUD」の調整オッズ比=6.24, CI=5.16–7.53) は、セックス前の日常的な飲酒の可能性を高めた。AUD 群では、独身であることによるセックス前飲酒のリスク上昇は 18% (p<0.0001) であったが、非 AUD 群では 3% (p<0.001) であった。		
結論： 本研究は、婚姻状況および AUD がセックス前の日常的な飲酒リスクにおいて重要であることが示唆された。独身で特に AUD のあるものに対する、飲酒および HIV 防止をターゲットとした公衆衛生的活動が必要と考えられる。		